

日蓮大聖人御書全集

ときどののにようぼうあまごぜんごしよ

富木殿女房尼御前御書

新版
1342
ゝ
1343

ときどののようぼうあまごぜんごしよ

富木殿女房尼御前御書

弘安2年こうあん ねん (79) 11月25日がつ にち 58歳さい 富木尼ときあま

はるかにみまいらせ候わねば、おぼつかなく候。
見 とうら

とうじとてもたのしき事は候わねども、むかしはことに
当時 楽 こと とうら 昔 殊

わびしく候いし時よりやしなわれまいらせて候えば、こ
侘 そら とき 養 そら

とおんおもくおもいまいらせ候。それについては、
恩 重 思 そら

いのちはつるかめのごとく、さいわいは月のまさりしおの
命 鶴 亀 幸 つき 勝 潮

みつがごとくとこそ、法華経にはいのりまいらせ候え。
満 ほけきよう 祈 そら

さては、えち後房・しもつけ房と申す僧をいよどのにつけ
越 ごぼう 下 野 ぼう もう そう 伊予 殿 付

そうろう

不便

当

たま

富木の

て候ぞ。「しばらくふびんにあたらせ給え」と、とき殿に

もう

たま

きようきようきんげん

は申させ給え。恐々謹言。

じゅういちがつにじゅうごにち

十一月二十五日

にちれん

かおう

日蓮 花押

ときどののようぼうあまごぜん

富城殿 女房尼御前

伊予ぼう

かくしよう

そうろう

ほうもん 聞

たま

いよ房は学生になりて候ぞ。つねに法門きかせ給い

そうろう

候え。